

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 26 年度第 2 回 基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 26 年 5 月 8 日 (木) 15 : 00 分から 17 時 00 分まで
- II. 場所 : 私情協事務局
- III. 出席者 : 高橋担当理事、真鍋委員長、島貫委員、今井久委員、石井委員、今井賢委員、高木委員、
今泉アドバイザー 井端事務局長、森下

IV. 資料

- ① 平成 25 年度私立大学教員の授業改善白書 (案)
- ② 第 1 回基本調査委員会 議事概要

V. 議事内容

1. 平成 26 年度私立大学教員の授業改善白書のとりまとめについて

(1) 解説の表現の見直し修正

前回の検討を踏まえて解説の表現を以下のように修正した。

① 教育現場での問題認識

項目を (1) 学生の学修に関する問題、(2) 教員自身の問題に改め、(2) 教員自身の問題を「教員自身の問題としては、「基礎学力の格差が授業運営を困難に」、「教室外での学修指導に時間がとれない」に修正し、表現を「しかしながら、この問題は従前から認識されている問題であって、このような現状を打開するために、大学として具体的な問題解決に向けたアクションがとられていない。」を修正した。

② 教育の質的転換を図るための教学マネジメントの対策

表現を「教育の質的転換を図るため、大学全体として取り組むべき教学マネジメントの対策として約 4 割の教員が学びを支援するファシリテータの制度化と整備をあげている。例えば大学院生など上級学年生による学生目線でのきめ細やかな助言やティーチング・アシスタントによる指導などがある。次に 4 割弱が、学士力の明確化とそれを実現するためのカリキュラム、教育プログラムのシステム化と可視化の構築をあげている。」に修正した。

③ 教員の教育力向上の課題

表現を「教育力向上の課題としては、4 割強の教員が、学生が生涯に亘り主体的に考え、行動できる能動的学修の実現に向けた教育改善の研究をあげている。ま教育内容・方法を支援するセンター等の設置と専門スタッフの配置を 4 割弱が望んでいる。」に見直し修正した。

④ 授業改善のための情報通信技術 (ICT) の活用状況

表現を「第二期教育振興基本計画では「学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化、ICT を活用した双方向型授業・自修支援や教学システムの整備、大規模公開オンライン講座(MOOC) の活用など」大学教育の質的向上を目指した取り組みを求めている。ところが、授業改善のための ICT 活用の実態は、ネット上にシラバスの詳細情報を掲載して授業運営の明確化を図ることや、ネット上の教材・小テストなどの活用による学修実態の把握に留まっている。平成 29 年度を目指した大学改革実行集中期間を考慮すると、国からの財政支援と大学の組織的支援が一層強化されれば、3 年先の計画以上に ICT を活用した授業改善の取り組みが期待できる。今後配慮しなければならない視点としては、3~4 割の教員が「ネット上で学修の助言・支援」、「大規模公開オンライン講座(MOOC) の活用」、「電子掲示板を用いたグループ学修」、「ネットを用いた社会人からの動機づけ」、「大学間・教員間のネットを用いた多面的な学修」、「産業界・地域社会と連携したネットによる実践学修」などをあげており、一刻も早い実践が期待される。」に見直し修正した。

⑤ 情報通信技術（ICT）を活用してさらなる教育効果を高めるための改善策

表現を「7割以上の教員がICTに過度に依存することなく、板書や対話の授業運営の工夫が重要としている。その背景として考えられることは、コンテンツを写真・動画で持ち帰ることでノートをとらない等、理解しているようで理解していない学修実態があり、教育効果の低下が問題視されている。この改善策としては、授業中にメモを頻繁にとらせ提出を義務付ける、頻繁に小テスト等で学びを確認する、グループワーク等で対話を含む授業運営を工夫することが必要であるとしている。」に修正した。

(2) 授業でICTを活用している事例

授業でICTを活用している事例について整理し、現在と将来を分野別に整理した。

(3) 情報通信技術（ICT）を活用したアクティブラーニングの事例

以下の8つの事例について、検討し事例紹介することにした。

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ① 英語音声学の反転授業 | 早稲田大学 教育学部 |
| ② eポートフォリオによる能力の伸張 | 大手前大学 現代社会学部 |
| ③ 大教室でのLMSを活用した対話型授業の試み | 北海学園大学 経営学部 |
| ④ 地域社会の協力によるPBL型授業の試み | 金沢星稜大学 経済学部 |
| ⑤ ミニッツペーパー、反転授業、TEDの複合的利用 | 別府大学 文学部 |
| ⑥ 対話型のシミュレーション学修システム | 岡山理科大学 工学部 |
| ⑦ レスポンスアナライザーを用いたTBL | 東京女子医科大学 医学部 |
| ⑧ iPadを用いた体育実技の学修 | 別府大学 短期大学部 |

3. 次回の委員会

本年度は情報環境調査の実施年度であるため次回は平成26年9月中旬に開催する。